行　政　視　察　報　告　書

参加議員	議会だより編集会議　会長　渡部伸広 副会長　里村誠悦 委員　小熊ひと美　天内慎也 木村淳司　木下靖 柿崎孝治
調査期間	令和５年１０月４日（水）
調査先及び調査事項	広島県呉市 「議会だよりについて」

視　察　概　要
■　調査先　広島県呉市
■　調査事項　議会だよりについて
■　調査内容 １．調査日　令和５年１０月４日（水） ２．調査目的 　本年７月に開催された中核市議会議長会「第 18 回議会報コンクール」で、呉市が最優秀賞を受賞しており、本市議会だよりの紙面づくりの参考とするため、調査に伺った。 ３．対応者 呉市議会　井手畑　隆政　副議長 〃　広報委員会　定森　健二朗　委員長 〃　佐伯　航一郎　委員 呉市議会事務局　議事課　福吉　昌志　課長 〃　蔦村　和雄　課長補佐 ４．調査事項の説明 （１）紙面構成について ・タイトルは「チーム議会くれ」とし、表紙は特集に関連した写真を掲載している。 ・特集テーマについては、議決後に実施した事業や施設等の整備の状況や成果について掲載している。テーマの選定は各会派で抽出したものを広報委員会で選考・決定している（年４回分）。使用する写真は事務局が撮影。 ・議案審議のページは、広報委員が３件を抽出し掲載している。 ・議員の質問ページは、代表質問と個人質問を掲載。６・９・12 月定例会は一般質問を、３月定例会は予算総体質問を掲載している。 ・議会トピックスは、特別委員会の設置や中間報告、決議書などの提出の動きなど、議会のタイムリーな話題を掲載している。 ・最後のページには「チーム議会ＰＬＵＳ」として、市内小学生の将来の夢や議会日程を紹介しているほか、広報委員の編集後記を掲載している。また、小学生の掲載につ

いては、家族や友だちなど幅広い層にも議会に関心を持ってもらいたいとの趣旨で令和４年８月発行号から開始し、掲載する児童の掲載は年度当初に、教育委員会から学校へ依頼し、学校で児童を選定している。

（２）概要

・発行回数は年４回（５・８・11・２月）。
・発行部数は 90,000 部、年間で 360,000 部。
・全ページカラーで、基本 16 ページでの構成。
・広報委員会の構成は、各会派及び諸派から各１名ずつ選出された６名。会議は原則非公開。任期の定めなし。
・委員会の開催は１号につき３回程度開催。
・特集記事の取材は委員２名、事務局１名が現地でインタビュー及び写真撮影を行う。取材後は、事務局が所管する部局と調整をしながら記事作成を進める。
・配布については、自治会を通して自治会加入世帯に 83,000 部と本庁舎、市民センター、図書館などでの配架、海上自衛隊呉地方総監部や取材先などへ配布を行っている。また、呉市議会ホームページでバックナンバーの掲載、無料のデジタルアプリ「カタログポケット」での公開を行っている。
・一般質問（代表質問）の記事については、代表質問を行った議員全員を掲載することとし、掲載スペースは２分の１ページとしている。原稿は質問者が作成し、質問が１問の場合は 520 文字、２問の場合は 500 文字以内にまとめることとしている。
・一般質問（個人質問）の記事については、掲載は諸派のみとし、掲載スペースは４分の１ページとしている。原稿は質問者が作成し、掲載は１問のみで 220 文字以内にまとめることとしている。また、会派に所属する議員や諸派で同じ団体の２人目以降の個人質問については質問事項のみとし、ＱＲコードを掲載している。
・写真については、事務局が調達。
・記事作成のコンセプトは、「議決した議案のその後を広報委員会が追跡取材し、市民の知りたいニーズを追求する」とし、若者層にも手に取っていただけるよう、文章を横書きで掲載し、写真やイラストを多用しビジュアル化を図って、「見る」広報紙を意識することとしている。

（３）リニューアルについて

・呉市議会だよりは平成 29 年５月に創刊。
・もっと市民に見てもらえる議会だよりにしたいという機運が高まったため、令和３年度からリニューアルに向けた検討を始め、令和４年８月からリニューアルした。
・大きな変更点としては、
　〇特集記事を巻頭で扱う
　〇12 ページから 16 ページへ
　〇若者にも手に取ってもらうため、余白を設け、主に横書きにし写真やイラストを多用
　〇タイトルロゴを作成し、各号ごとにイメージカラーを定め、統一感をもたせた
　〇リニューアル後の平成 30 年２月発行の第４号及び令和４年８月発行の第 22 号が、中核市議会議長会の議会報コンクールにおいて、最優秀賞を受賞

５.質疑応答

問：　一般質問の掲載の仕方について

答：　本市は会派制をとっており、一般質問は代表質問で基本的にはするものとしている。その関係で、会派に所属している議員で２人目以降については「ほかにもこんな質問が！」の欄（質問項目とＱＲコードのみの記載）に掲載している。また、諸派の２人目以降の議員もこの欄に掲載されることとなる。現在、掲載方法については見直しを検討しているところであり、個人質問はなるべく全員が載せれるようにしたいと考えている。

※会派とは、議員３人以上をもって構成する議会内の交渉団体を言い、この要件を満たしていない団体を諸派と言う。（呉市議会ＨＰから）

問：　一般質問（個人質問）のページに掲載されている議員（４分の１ページ分）は、諸派または一人の会派の議員ということになるのか。

答：　そのとおりである。代表質問は各会派１人ずつなので、会派所属の議員は１年に１回も回って来ないが、諸派等の議員は質問する議員が多いので毎回掲載される。このようなこともあり、そもそも広報紙の公平性というのがどこにあるのかという意見もあり、掲載方法の見直しの検討という状況になっている。

問：　自治会で配布をしているとのことだが、自治会の加入率はどのくらいか。

答：　令和３年度の加入率は 68.5%となっている。

問：　自治会に入っていない方へ渡る手段はあるのか。

答：　本庁舎や市民センター、図書館などに配架しているので、そちらから取っていただくか、市のホームページやカタログポケットのアプリで見ていただくということが可能となっている。

問：　ＱＲコードなどを利用できない年配の方などから意見は出ていないか。

答：　今のところ、クレーム等は特に出ていない。ＱＲコードを利用する方は若い方が主になっているかと思うが、リニューアルした際に、若い層の方に見てもらうという大きな目的があり、そのためのツールとしてという考え方もあるかと思うので、そういった意味では目的を果たしていると考えている。

問：　呉市の議会だよりは写真が多く掲載されており非常に見やすいと感じたが、その分文字数等に制約がかかり苦労しているかとも思うが、その辺はどうか。

答：　リニューアルする際に専門家から、「若者をターゲットにするならローマ字を使い、表紙は脳裏に焼き付く写真で、まずは手に取って見てもらうということが必要である、そして写真から人を惹きつける」という助言をいただいた。そうしたことから、「見る広報紙」をイメージして、写真を多用し、まずは手に取って興味を持ってもらうということで取り組んでいる。

問：　配布対象に高校も入っているが、高校生からの反応はあるか。

答：　紙面に関して直接反応をいただいたということはない。

問：　ホームページでのアクセス数の把握はしているか。
答：　令和４年度の録画中継に係るアクセス件数は約５万件、ライブのほうは約３万件となっている。ＱＲコードからのアクセス数は把握していない。

問：　リニューアルする際に、議会の中の合意形成はどのように取られたのか。
答：　広報というのはすごく重要だと考えており、リニューアルには１年間かけて取り組み、内容についてそれぞれの会派の思いがぶつかったときには１日３、４時間くらい話をしたこともあった。基本的には全会一致で進める考えでやっており、妥協案とかも出したりしてすり合わせながら、一歩一歩進めて、今の形に落ち着いた。

問：　横書き表示になった経緯や反響はどうか。
答：　横書き表示については、専門家に助言を求めた際に、ローマ字を使ったりというような話が出ており、そうするのであれば縦書きではなく横書きがいいという経緯がある。もう一つは、本来横書きにすれば裏面から開くスタイルとなるが、一部、どうしても縦書きで表現する部分もあったり、特集が縦書きのため、紙面はこれまでどおりでやっているが、今後全て横書きで対応していくということになれば、開き方を逆にするという見直しも必要かなと考えている。また、市民からは、今のところ見にくいなどの声は出てきていないという現状である。

問：　議案審議のページでは、議案の内容だけではなく、関係する質疑を掲載しているところがすごく分かりやすくていいなと思ったが、掲載に当たってはどのように決めているのか。
答：　議案審議に掲載する項目は多数決で決めており、内容については、いろんな議員の質問が混じっている形になっているが、より分かりやすく伝えられるような内容としている。

問：　一般質問に掲載する内容は、議員が自ら作成しているのか。
答：　議員自らが作成しており、各広報委員がしっかり指導をして提出いただいている。

問：　イラストが多用されており、見やすくて分かりやすいと感じたが、イラストレーターに依頼しているのか。
答：　基本的に職員が調達しており、調達できない場合は、印刷会社へ掲載するイメージをしっかり伝えた上で印刷会社が持っているものを掲載するなど、経費をかけないでやっている。

問：　ユーチューブでも議会中継の配信を始めたとのことだが、収益化するという考えはあるか。
答：　先日、安芸高田市の市長が財源にするとしており、40 万円くらいの収入があったと記事にあったが、呉市では財源にするという考えは、今のところ出ていない。配信に関しては、手話言語条例で難聴者の方に文字情報を提供するという意味合いのほうが強く、本会議部分にテロップをつけたものを配信している。その際、ユーチューブの字幕機能を使わず、事務局で作成した会議録を表示したものを配信している。

問：　青森市では、選挙の投票率が年々下がっている傾向にあるが、呉市の議会だよりには「～私の夢・市の将来～」ということで小学生が掲載されているのを見て、若い人が身近に感じているのかなと思うが、投票率はどのくらいか。

答：　紙面に小学生を掲載することで、関わる人を増やし、より多くの方が手に取ってもらいたいとの趣旨で取り組んでいる。投票率については、直近が市議会議員選挙であり45%だった。４年前は50%くらいだったので、呉市においても少しずつ下がっている状況である。

　投票率の向上ということでは、議会では、議会報告会を市内の高校で行うこととしており、議会を身近に感じてもらって投票率を上げる努力をしようという取組をしているところである。その際に議会だよりを基に説明している。

問：　議会報告会は学校で行っているとのことだが、日程調整等はどのようにしているのか。

答：　学校開催については、平成28年度から試行的に行い、年々数が増え、現在では市内の高校９校で開催をしている。この９校については、こちらから議会報告会の開催を打診すると、学校の行事等とかぶらない限りはほとんど受けてくれる状況である。

問：　一般市民を対象にした議会報告会はどのように行っているか。

答：　議会報告会は平成22年から市内２会場で開催し、平成23年から平成27年で市内16会場、平成28年からは市内10会場で開催してきた。平成28年はこの年から高校開催を始めたということと、もう一つは常任委員会が所管する関係団体ともやったほうがいいのではないかとの話が出て、６会場で開催したため、一般市民対象の開催が少なくなり、コロナ禍になってからは開催していない。今年度は実施方法を変更し、地区や団体等から開催の要望があれば開催することとし、出してもらったテーマに応じて議員を派遣するという形にした。これまでに５地区からの要望が上がっている。